

平成28年度
ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI
(研究成果の社会還元・普及事業)
実施報告書

HT28320 プログラム名 中高生のためのインテリアコーディネート塾・施工篇(花屋さんのディスプレイ)



開催日：平成28年7月24日(日)

実施機関：九州産業大学

(実施場所) 8号館

実施代表者：諫見泰彦

(所属・職名) 工学部・准教授

受講生：高校生15名

関連URL：<http://www.kyusan-u.ac.jp/>

【実施内容】

インテリアコーディネートは、インテリアや住宅に関する幅広い知識・専門的な技術などを駆使し、家具やカーテン、照明等の商品をトータルに設計し施工する仕事である。この分野を詳しく学べるように、九州産業大学は工学部住居・インテリア設計学科を開設した。中高生に身近な約5年後の目標となる同学科所属の大学生が、この4年間で学んだ知識・技術・情報・経験を参加者の進路選択に役立ててもらえるようにこのプログラムを実践する。「地域の固有資源を活かした参画型建築教育・デザイン教育プログラムの創出と評価」の実施および発展過程において、ものづくりから考える建築・インテリア分野の教材開発と教育実践に取り組み成果を得た。こうした成果を参加者に伝達した。

・プログラムを留意、工夫した点

今回は「花屋さんのディスプレイ」を課題として、パレットボックスというユニット素材を使ったインテリアコーディネートの施工を体験できた。インテリアコーディネートの基本的な手法に「素材や形態を統一する」というものがある。これを参加者に理解させるため、シナベニ材を材料にまず同一素材・形態のケース(申請・計画段階ではパレットボックスと呼称、実践前に変更)を製作した。次にこれをユニットに本学内に作品を完成させた。

・当日のスケジュール

9時30分 受付開始

10時00分 開講／講義①コーディネートの要点とケースの製作方法

10時30分 ケース(模型)の製作作業

12時00分 昼食／休憩 (その間、マンションリノベーションのDVD上映)

12時45分 講義②ケースを使ったコーディネートの実際と施工方法

13時15分 ケース(実物)の施工作業

14時45分 未来博士号授与、科研費の説明、アンケート執筆

15時00分 閉講／解散

・実施の様子



ケース(模型)の製作作業



ケース(実物)の施工作業

・事務局との協力体制

事務手続きについては、本学学術研究推進機構産学連携支援室において行った。

・広報活動

- ①本学の夏のオープンキャンパスと開催日を合わせることで参加者の確保を図った。
- ②本学総合企画部を通して本学のホームページに掲載した。

・安全配慮

- ①実施場所の安全確認を行った。
- ②実験・実習時の道具使用の説明と注意喚起を行った。
- ③実施場所周辺の医療機関の休日情報把握を行った。
- ④参加者の傷害保険(東京海上火災日動旅行傷害保険)に加入した。
- ⑤実施代表者の業務上の災害補償については、本学就業規則第8章(災害補償)を適用した。
- ⑥実施協力者(学生)の保険については、本学の委託徴収金として学生教育研究災害傷害保険料を入学時に4年分一括納付しているため、これを適用した。

・今後の発展性、課題

参加者の作品は、本年11月に旧門司港大連航路上屋(北九州市門司区)多目的ホールで開催される、フラワーアレンジメントスクールの作品展において、「花屋さんのディスプレイ」として実際に活用される予定である。こうした成果も参加者にもフィードバックしていき、参加者の本分野への関心を持続・定着させていきたい。

【実施分担者】

なし

【実施協力者】

12名 木村友香 江本卓生 岡村信一郎 小野将司 迫田和樹 寺本湧哉 東 晃生
江川詩乃 河村大樹 高田祥平 友末佑太 許山若奈(全て本学工学部・学生)

【事務担当者】

大藤高志(本学学術研究推進機構産学連携支援室・主任)

平成28年度
ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI
(研究成果の社会還元・普及事業)
実 施 報 告 書

HT28320 プログラム名 中高生のためのインテリアコーディネート塾・施工篇(花屋さんのディスプレイ)



開 催 日： 平成 28 年 10 月 23 日(日)

実 施 機 関： 九州産業大学

(実施場所) 8号館

実施代表者： 諫見泰彦

(所属・職名) 工学部・准教授

受 講 生： 高校生 15 名

関 連 URL： <http://www.kyusan-u.ac.jp/>

【実施内容】

インテリアコーディネートは、インテリアや住宅に関する幅広い知識・専門的な技術などを駆使し、家具やカーテン、照明等の商品をトータルに設計し施工する仕事である。この分野を詳しく学べるように、九州産業大学は工学部住居・インテリア設計学科を開設した。中高生に身近な約5年後の目標となる同学科所属の大学生が、この4年間で学んだ知識・技術・情報・経験を参加者の進路選択に役立ててもらえるようにこのプログラムを実践する。「地域の固有資源を活かした参画型建築教育・デザイン教育プログラムの創出と評価」の実施および発展過程において、ものづくりから考える建築・インテリア分野の教材開発と教育実践に取り組み成果を得た。こうした成果を参加者に伝達した。

・プログラムを留意、工夫した点

今回は「花屋さんのディスプレイ」を課題として、パレットボックスというユニット素材を使ったインテリアコーディネートの施工を体験できた。インテリアコーディネートの基本的手法に「素材や形態を統一する」というものがある。これを参加者に理解させるため、シナベニ材を材料にまず同一素材・形態のケース(申請・計画段階ではパレットボックスと呼称、実践前に変更)を製作した。次にこれをユニットに本学内に作品を完成させた。

・当日のスケジュール

9時30分 受付開始

10時00分 開講／講義①コーディネートの要点とケースの製作方法

10時30分 ケース(模型)による検討

12時00分 昼食／休憩 (その間、マンションリノベーションのDVD上映)

12時45分 講義②ケースを使ったコーディネートの実際と施工方法

13時15分 ケース(実物)の施工作业

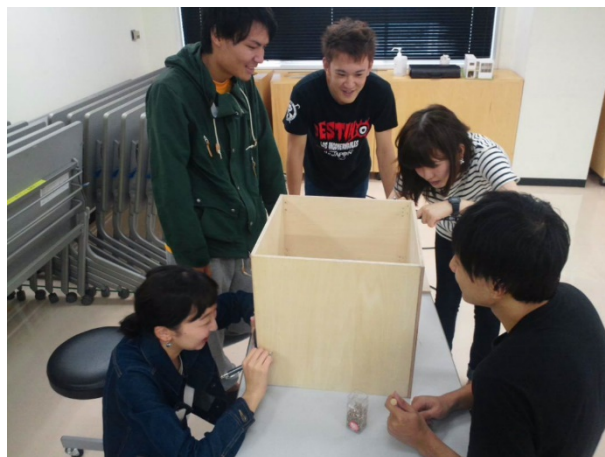
14時45分 未来博士号授与、科研費の説明、アンケート執筆

15時00分 閉講／解散

・実施の様子



ケース(模型)による検討



ケース(実物)の施工作业

・事務局との協力体制

事務手続きについては、本学学術研究推進機構産学連携支援室において行った。

・広報活動

- ①本学の秋のオープンキャンパスと開催日を合わせることで参加者の確保を図った。
- ②本学総合企画部を通して本学のホームページに掲載した。

・安全配慮

- ①実施場所の安全確認を行った。
- ②実験・実習時の道具使用の説明と注意喚起を行った。
- ③実施場所周辺の医療機関の休日情報把握を行った。
- ④参加者の傷害保険(東京海上火災日動旅行傷害保険)に加入した。
- ⑤実施代表者の業務上の災害補償については、本学就業規則第8章(災害補償)を適用した。
- ⑥実施協力者(学生)の保険については、本学の委託徴収金として学生教育研究災害傷害保険料を入学時に4年分一括納付しているため、これを適用した。

・今後の発展性、課題

参加者の作品は、11月26日から旧門司港大連航路上屋(北九州市門司区)多目的室で開催される、フラワーアレンジメントスクールの作品展において、「花屋さんのディスプレイ」として実際に活用される予定である。こうした成果も参加者にもフィードバックしていき、参加者の本分野への関心を持続・定着させていきたい。

【実施分担者】

なし

【実施協力者】

12名 木村友香 江本卓生 岡村信一郎 小野将司 迫田和樹 寺本湧哉 東 晃生
江川詩乃 河村大樹 高田祥平 友末佑太 許山若奈(全て本学工学部・学生)

【事務担当者】

大藤高志(本学学術研究推進機構産学連携支援室・主任)